資料２

**３　現状と課題**

**（1）ライフスタイル・価値観の多様化**

人々の日常生活を取り巻く環境の様々な変化に伴い，人々のライフスタイルや価値観は多様化しています。ライフスタイルの変化の一つに晩婚化の傾向や共働き世帯の増加が挙げられ，価値観では，ひとりひとりの個性や感性，いわゆる「自分らしさ」を尊重する傾向が強まっており，核家族化やひとり暮らし高齢者の増加とも相まって，人と人とのつながりが薄れつつあります。

　本市においても，今後，さらなる少子高齢化の進展が見込まれており，子育てや介護などに悩む人たちやひとり暮らし高齢者，障害者など社会的に弱い立場の人が孤立していく恐れがあることから，失われつつある家族や地域の絆を再構築し，人々が互いに支え合いながら，末永く健やかに過ごすことのできる社会の実現に努める必要があります。

**（2）グローバル化やIT化への対応**

　近年の情報通信技術の進展や高速交通手段の拡大などによって，人，物，情報の流れが国内はもとより国際的にも加速を見せ，社会・経済や芸術・文化，スポーツなど，多方面での交流の機会が生まれています。本市においても外国人観光客は増加しており，東京オリンピックの開催も予定されていることから，国際化社会に対応し，海外の文化や習慣に対する理解を深め，わが国の良さと地域の個性をアピールしながら，世界からの来訪者を受け入れる環境づくりを進めるとともに，定住外国人への生活支援をはじめ，外国人の来訪や市内在住等の増加の状況を踏まえた環境づくりを進めていくことが必要です。

**（3）環境意識の高まり**

地球規模での環境問題を私たちの日常生活と大きく関わる環境問題として受け止め，エネルギーの消費やごみの排出など，環境保全に対する市民の意識がますます高まってきています。良好な地域環境を次の世代へと継承していくためには，市民，事業者と行政が，それぞれの責任と役割を分担しながら，一体となって，貴重な自然を守っていくとともに，資源循環型の社会の構築に取り組んでいくことが求められています。

そのためには，ごみや生活排水の処理のための施設などの整備を進めるとともに，農地や緑地，水辺などの自然環境の保全や都市の緑化を図っていく必要があります。

　また，ごみの減量化やリサイクル，省エネルギー・省資源などの実践や，環境美化のための積極的な活動によって，環境問題の解決に向けた努力を継続していくことが必要です。

**（4）安全・安心への希求**

　平成23年3月11日に発生した東日本大震災は，国内観測史上最大の地震と津波，原子力事故が複合した未曾有の災害となりました。本市でも，震度６弱を観測し，建物の全半壊，道路の亀裂や陥没，上下水道，小・中学校，スポーツ文化施設などの公共施設が損壊したほか，那珂湊や平磯などの沿岸地域においては，押し寄せた津波により家屋，漁港，魚市場などが浸水・損壊するなど，市内全域で甚大な被害をこうむりました。

その一方で，地域の人たちが力を合わせて，飲食物の確保や炊き出し，乳幼児，病人，高齢者などの災害弱者への支援，地域での給水活動や自宅の井戸水の開放等を行うなど，改めて本市の高い市民力が明らかになりました。

市民生活の安全・安心を確保するためには，自主防災会や民生委員・児童委員などと連携しながら，災害への備えに万全を期すとともに，避難所や避難路をはじめとした防災基盤の整備に取り組み，災害に強いまちづくりを推進することが必要です。